

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

花めぐり

“恋の花”アガパンサス

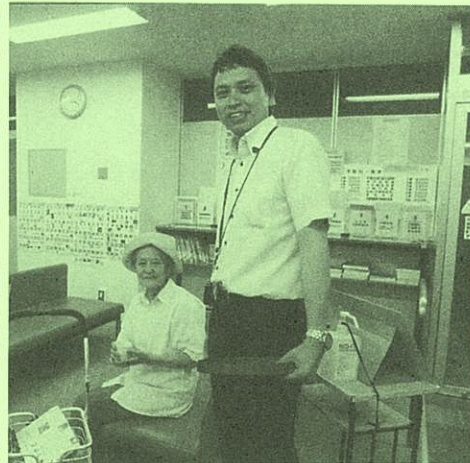
散歩の途中など、庭先に、背が高くスラリと伸びた花茎の先端に、ラッパ形の細長い花が放射状に咲いている姿を見かけます。アガパンサスです。原産地は南アフリカで、日本には明治時代に伝わったそうです。

根際から伸びる光沢のある細長い葉がクンシランに似ているところから、別名「ムラサキクンシラン」とも呼ばれています。花の色は薄紫や淡いブルーが目につきますが、ピンク色や白色もあります。薄紫や淡いブルーの花は見た目が爽やかで、心を落ち着かせる効果があります。これからの蒸し暑い季節にはスッキリとした印象を与えてくれるでしょう。花言葉は「恋の訪れ」「知的な装い」「恋の季節」など。

(広報委員 石井貴美子)



「避暑シエルター」でひと休み(荏原第一地域センターで撮影)



熱中症対策は万全ですか?
施設内の「避暑シエルター」
炎天から逃れて快適なひと時を
品川区では熱中症対策として、7月から区内62カ所の施設内の一部を「避暑シエルター」として、付近に在住の区民に開放しています。
これは、気温が上昇する日中の暑い時間帯に、冷房のきいたスペースで涼をとって、快適なひと時を過ごすてもらおうというものです。また、家に引きこもりがちの高齢者や、子育て世代の親子などにも気軽に利用してもらい、避暑と同時に節

電効果もねらっています。

避暑シエルターとして利用できる施設は地域センターをはじめ文化センター、児童センター、シルバーセンター、保健センターなどで、冷たい麦茶などが用意されています。

セーフティー教室と

集団下校を実施

後地小学校

後地小学校では6月23日(月)、「セーフティー教室」と「子ども110番集団下校」を実施しました。

この教室は、子どもたちが犯罪に巻き込まれないように、毎年、学校・家庭・地域・関係機関が連携して行っています。

1～3年生は、知らない人に道を聞かれた時の対応の仕方として「その場で教えてあげて、一緒に歩いて案内しないこと」などを学びました。

また、GPSおよび携帯電話機能付防犯ブザー「まもるっち」の使い方を教習。実際に代表2人が警告音を鳴らし、見守りセンターのオペレーターとのやり取りを体験しました。

4～6年生は、携帯電話やインターネットでのトラブルの対処法について学習。携帯メールでのやり取りから実際に被害

街角ウォッチング

猫たちの里親カフェ

私の家のすぐ前に「里親カフェ」という名の施設がお目見えした。一体どんな施設なのか、気にかかるので、6月13日の昼過ぎに訪ねてみた。応対してくれたのは、元気で明るい感じの40歳の施設長。ひと言で言えば、東日本大震災で行き場を失った猫たち、あるいは、何らかの事情で「孤児」になった猫たちと、新しい飼い主との出会いの場である。

室内は12、3畳ほどの広さで、施設長みずから作ったという木登り用のポールをはじめ、大小のゲージや揺りかごなど、猫たちが退屈しないように備品類が配置されている。

この空間に現在、12匹の幼い子猫が里親が現れるまで待機しているのだ。すべてワクチンは接種済みで、ノミやダニの除去も施されているという。

入り口に添えられた小さな募金箱が目止まる。運営資金はすべて善意の募金でまかなわれているそうだ。「里親はともかく、猫ちゃん好きの方は気軽に遊びにきてくださいね」と施設長。

場所は荏原1-24-1、☎03-6421-6023

(広報委員 吉田健治)



にあつた生徒の事例が紹介されると、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。下校時には、地域班ごとに保護者付き添いで「子ども110番集団下校」が行われました。その際、いつも登下校時に見守ってくれている「子ども110番の家」のお宅に「いつもありがとうございます」とあいさつして回りました。

要援護者の避難誘導を訓練

小山1丁目町会

小山1丁目町会は6月15日(日)、「災害時要援護者避難誘導ワークショップ」を実施しました。

参加者22名は2つのルートに分かれ、小山1丁目会館から後地小学校を目指して出発しました。

災害時を想定して歩いてみると、普段は気づかないような発見がいくつもありました。

一つ目は落下物です。電柱の倒壊やトランス、室外機、ベランダに置いてある鉢植え、窓ガラスの破片などに注意します。



苦勞の末に倒木を乗り越える

一つ目は、倒壊物や落下物が街路をふさぐことも考えられます。そんな箇所を確認しながら歩きました。

二つ目は、坂道が意外に多いということでした。要援護者の安全と不安を和らげるには工夫が必要でした。たとえば坂道を車いすで下る場合、押し手は後ろ向きの方が安全で扱いやすい、リヤカーの場合は二人以上の押し手が必要ということに気づきました。2名乗せたリヤカーで倒木を乗り越えるには5～6名の人手を要することも分かりました。学ぶ事の多いワークショップでした。

◎各ご家庭に配布しております。1部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は、8月20日(水)発行の予定です。